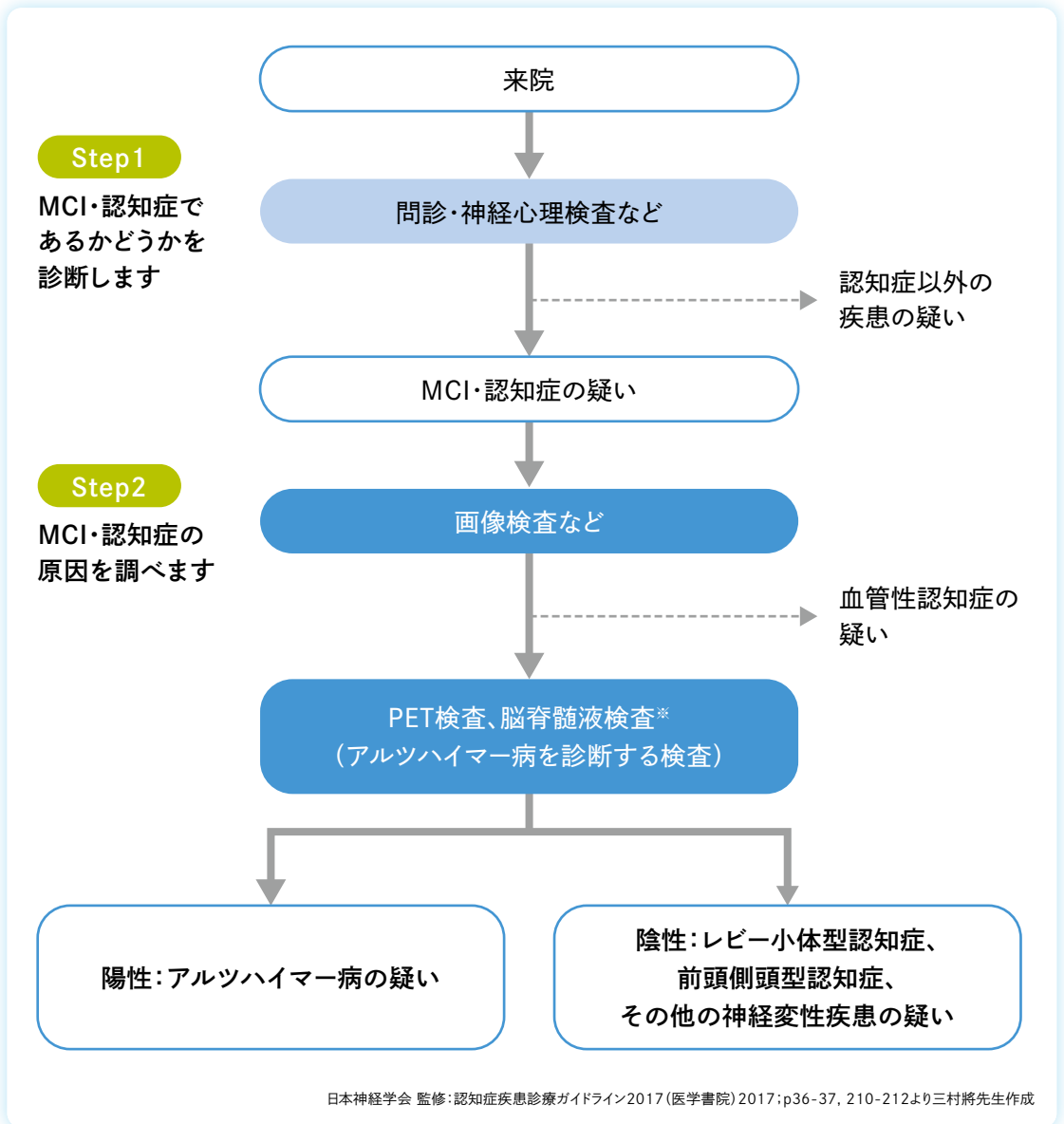


検査と治療はどのような流れで行いますか？

まずは医師による問診を受けたうえで、認知機能を調べる神経心理検査を行います。その結果、MCIや認知症が疑われる場合には、画像検査などを行ってその原因を調べます。神経の障害による認知症の場合には、アルツハイマー病を診断する検査など、より詳細な検査を行ってタイプを分類し、それぞれに応じた治療が行われます。



※PET検査、脳脊髄液検査は、一部の施設で実施可能な検査です。

アルツハイマー病を診断する検査はどのようなものですか？

最近では、脳内のA β を調べる検査によって、早期にMCIや認知症を診断できるようになってきました。

A β の蓄積はアルツハイマー病の特徴で、検査が陽性の場合、アルツハイマー病の可能性が高いとされます。

検査が陰性の場合、アルツハイマー病以外の認知症（レビー小体型認知症など）やその他の病気が原因の可能性が考えられます。また、今は陰性でも月日が経ってから陽性となる可能性もありますし、複数の病気が合併しているケースも考えられます。それぞれのタイプにあった適切な対策を行うために、検査をして原因を特定することが重要なのです。



アルツハイマー病を診断するための検査として、現在は下記のような検査によってA β を調べることができます。

- PET検査（アミロイドPET）
- 脳脊髄液検査

次のページで、それぞれの検査について説明します。

検査の特徴や、必要な費用についてなど、不安なことがある方やもっと詳しく知りたい方は医師に相談してみましょう。

アルツハイマー病を診断する検査はどのようなもので

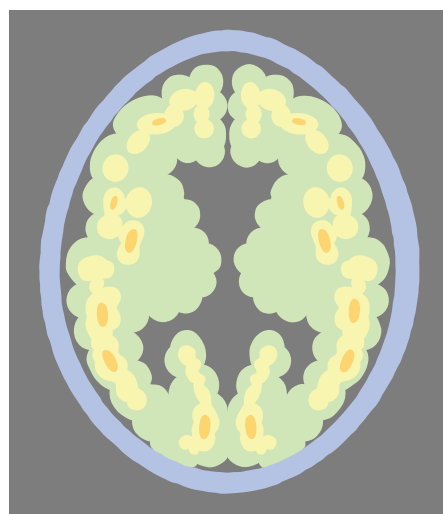
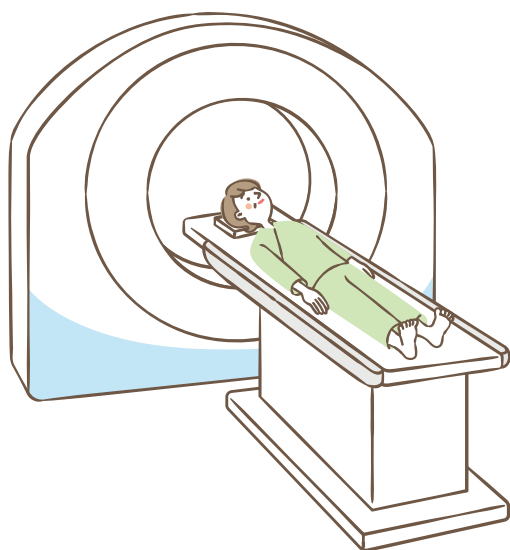
PET検査(アミロイドPET)

微量の放射線を出す薬を投与して画像を撮影する検査です。

A β に結合する薬を使用することで、脳内のA β の蓄積を画像で見ることができます。

薬を注射した後、少し安静にしてから専用の医療機器に入り、横になったまま数十分間撮影を行います。放射性物質を含む薬を用いますが、被ばくは体に影響が出る放射線量よりもきわめて低いといわれています。

アミロイドPETは専用の薬や機器が必要なので、実施できる病院が限られています。詳細は専門医に確認しましょう。

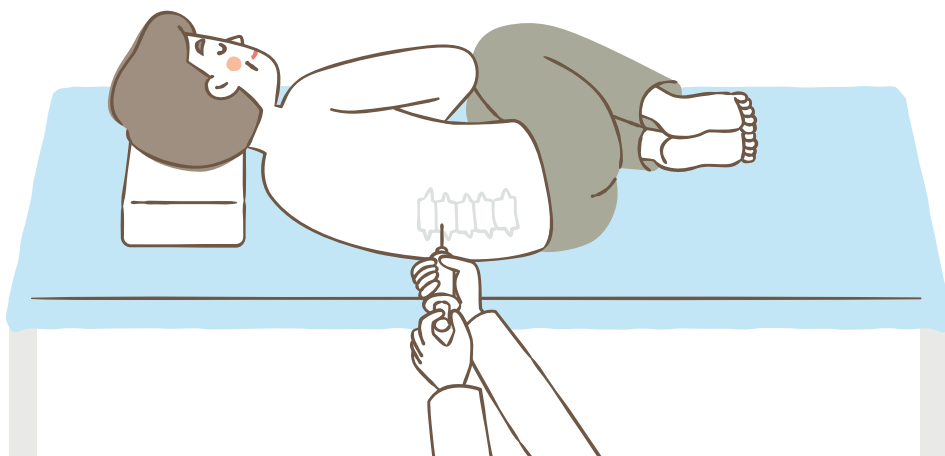


脳脊髄液検査

背骨の間から脳脊髄液を抜き取ってA β を調べる検査です。

脳脊髄液のA β を調べることで、アルツハイマー病の診断や発症を予測できる可能性があることがわかってきました。画像検査よりも早い段階でアルツハイマー病の診断につながると期待されています。

脳脊髄液検査は針を使う検査なので、消毒や痛みをとるための麻酔を行います。また、検査後は数時間安静にするため、病院によって検査を入院で行う場合と日帰りで行う場合があります。



側臥位(横向きに寝ている状態)で脳脊髄液を採取します。

※施設によっては座った状態で行う場合もあります。